

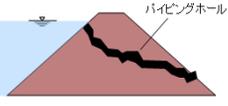
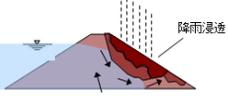
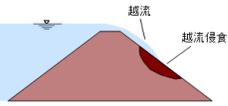
ため池決壊について

ため池の堤体には池内に貯留している水が浸透します。水が浸透すると、土の粒子の間に水が入り、土が移動しやすい状態となり弱くなります。

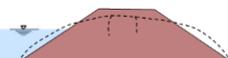
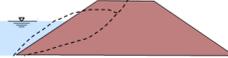
また、水が堤体を越流すると、流水そのものの影響で堤体が浸食され、非常に危険です。

豪雨や地震はこの状態を促進する方向に作用するために、以下の被災形態等で決壊することがあります。

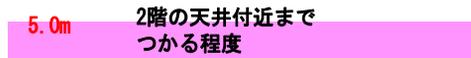
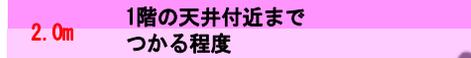
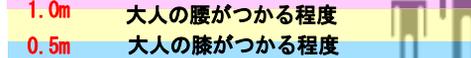
●豪雨によるため池の被災形態

区分	被災形態	被災メカニズム
浸透破壊		堤体内部が劣化して、水を遮る機能が低下すると、貯水位が上昇した時に堤体の中の水圧も上昇して強度が低下し、破壊する場合があります。また堤体内に上流から下流に向かう水みちが発生し破壊する場合があります。
すべり破壊		貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面部の強度が低下することによって、法面部ですべりが発生し破壊する場合があります。
越流破壊		豪雨により、貯水位が急激に上昇し、堤体を越えて流れ出すと、下流斜面を流下することによって、破壊する場合があります。また、貯水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、強度が低下して破壊する場合があります。

●地震によるため池の被災形態

区分	被災形態	被災メカニズム
クラック		堤体の頂部などにクラック（亀裂）が発生する場合があります。堤体の上下流方向に生じるクラック（亀裂）は水みちとなることがあり、特に注意が必要である。
沈下		堤体の形状をほぼ保ち、クラック（亀裂）などを伴いながら堤体が沈下する場合があります。多くは軟らかい地盤で発生している。
斜面崩壊		堤体法面の上部が沈下し、下部がはらんで変形が生じる場合があります。
斜面すべり		地震動により堤体の法面にすべりが発生する場合があります。
崩壊		堤体や地盤が大きく変化し、崩壊する場合があります。決壊に至ることが多く、堤体や基礎地盤の液状化によるものと考えられる。

状況に応じた避難をしましょう！

浸水深の目安	浸水深	避難状況
	浸水深2.0m以上 2階の軒下まで浸水	即座に浸水想定区域外の高台などに避難
	浸水深1.0-2.0m未満 1階の軒下まで浸水	即座に近くの頑丈な建物の3階以上又は浸水想定区域外の高台などに避難
	浸水深0.5-1.0m未満 大人の腰まで浸水	即座に近くの頑丈な建物の2階以上又は浸水想定区域外の高台などに避難
	浸水深0.5m未満 大人の膝まで浸水	自宅待機又は浸水想定区域外に避難、但し、浸水域内の行動は慎重に！！